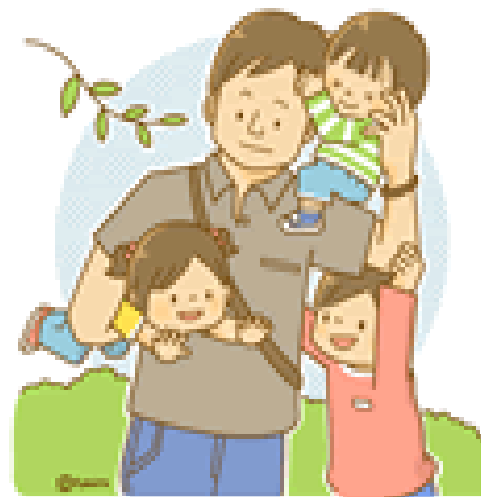


知的な遅れ、 発達の遅れへの対応

新潟大学教育学部
長澤正樹

内容

1. 共通する対応
2. 発達段階に従った目標設定
3. 対応の基本
4. 指導プログラム
5. 特別支援学校って？
6. 相談機関



1. 共通するかかわり

障害の有無にかかわらず、
子育てに求められること

1-1 自己肯定感を高めるかかわり

- 子どものやる気を高めるかかわり

親しく声をかける、子どもに関心を持つ

- できたという成功体験をあたえる

できることから始める、無理のない目標設定

- 自分はできるという自信を育てる

当たり前前のができたらほめる、みとめる

- 自分でも役に立つという体験を与える

子どもに仕事を与え、感謝する
家の仕事、係活動

どんなことでもいいのでほめて伸ばしましょう

上手なほめことば

| ことば | もっといい言い方 |
|---------|------------------------|
| すばらしいね | すごい。 全部できたね |
| がんばったね | 今度は3つのうち 2つもできたね |
| じょうできたよ | 〇〇をすれば こんどはちゃんとできるよ |

ほめことばの公式 = 行為 + ほめことば + (助言)

1-2 身辺自立の指導

- 規則正しい生活の中で繰り返し教える

同じ時刻、同じ場で、根気よく、楽しく

- はじめは手をかけ、少しずつひいていく(例)

全部やってあげる→少しずつ手をひく→ひとりでできる

- 少しでも自分でできたら必ず誉める

完璧でないのは当たり前。できたことを誉める

- 失敗しても叱らずに「次」を教えよう

「今度は〇〇しようね！」

繰り返し、援助→援助を減らす、できたら誉める

1-3基本的な生活習慣とは

1. 排泄の完成
2. 食事のしつけ
3. 着脱のこと
4. 清潔の習慣
5. 睡眠の習慣
6. あいさつ、コミュニケーションなど

子どもは大人のまねをすることで生活習慣を獲得

生きていく上で必要なこと

親の愛情を受け、心理的安定が得られる

さらに、安定した生活習慣と学力と深い関係があることも知られている



ルールを教える

- 規則正しい生活の流れ

活動の順序性を教える→時計に従った生活

- ものの使い方など、基本的なマナー

食事やトイレなど、使い方を個別に教える

- あいさつや人への接し方

大人が見本を見せてまねさせること

- できたかどうか、かならず評価すること

家庭内にはルールがあり、
ルールを守るとほめられることを教えます

1-4自己選択

- 自分で選ぶ、きめる

ブランコと滑り台、どっちで遊ぶ？

このTシャツとこれとでは、どっちがいい？

- 何度か繰り返し、子どもに選択させる

– 選択できる活動や遊びをいくつか繰り返し、子どもに選んでもらう

すべり台とブランコを交互に体験→遊びの選択

選択の機会を与え、選択肢と結果を示す



2. 発達段階に従った目標設定

資料:遠城寺式発達検査

発達検査の活用

- 子どもの発達の様子を客観的に知ることができる
- 子どもに次に獲得して欲しい行動がわかる
- 注意！
 - 個人差があります。結果で一喜一憂しないこと
 - あくまでも目安です。

遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表

| 氏名 | 男 女 | 外 来 No. No. | 検 査 日 | ① | ④ | 備 考 | | | | | | | |
|---------|--------|----------------|-------|------|---|------|------------------|----------------------|----------------------|-------------------|---------------------|------------------|--|
| | | | | ② | ③ | | | | | | | | |
| 生年月日 | 昭和 | 年 | 月 | 日 | 生 | 病 名 | | | | | | | |
| 7:6 | | | | | | | なわとび2回以上 変形の模写 | 蝶と蝋、卵と石、木と草の塗具 2/3 | 見栄を張る | 重さの比較5個 1/3 | マッチに点火できる | | |
| 7:0 | | | | | | | なわとび1回 | 糸巻きができる | 色の名前がわかる 赤・青・黄・緑 1/3 | お母さんが死にはしないかと心配する | 音を聞いて18までかぞえる | 小さな物に自分でホータイをする | |
| 6:6 | | | | | | | 40cmの高さを飛びこえる | 図形の模写 | 用途の定義：鉛筆、コップ、机、人形、時計 | 広くのをみられるのを恥かしがる | 左右の区別ができる | 歯を毎日みがく | |
| 6:0 | | | | | | | 片足立ち10秒以上 | 蝶むすびができる | 年令、住所、親の名がわかる 2/3 | 裸でいるのを恥かしがる | 了解問題：遅刻、雨、こわした時 2/3 | 4~5人で集団遊びができる | |
| 5:6 | | | | | | | つまさき立ち10秒 | はさみが使える | 文章の反唱 2/3 | ゲームで自分の番が待てる | 了解問題：遅刻、雨、こわした時 2/3 | スゴロク、カルタができる | |
| 5:0 | | | | | | | スキップができる | 四角・十字2つ | 赤ちゃん言葉の卒業 | 言葉で「ふ」などとおど | | | |
| 4:6 | | | | | | | 片足で5歩とべる | 四角・十字いずれか1つ | 接続詞や助詞を使う | 「こうしてと許可を求 | | | |
| 4:0 | | | | | | | 片足で2、3秒立てる | ボタンはめができる | 自分の姓名がわかる | 弟妹にします | | | |
| 3:6 | | | | | | | 30cmの高さからとび降りる | まねして横に線をひく | 代名詞これ、あれ、僕、私など使う | 新しい滑り台、椅子などを使う | | | |
| 3:0 | | | | | | | 両足を一時上げてジャンプする | 真を1枚ずつめくる | 二語文を話す | 手を叩き、みならしに表現する | | | |
| 2:6 | | | | | | | 階段を手すりにつかまって昇降する | ピンにコルクの栓をする | 目、耳、鼻、髪を全部指示する | 叱られる | | | |
| 2:0 | | | | | | | 走る | 積木を3つつむ | 動詞ができる | 人形、抱っこを喜ぶ | | | |
| 1:6 | | | | | | | ひとり歩き(外で自由に) | なぐり書きする | 四語言える | | | | |
| 1:8 | | | | | | | ひとり立ち、ひとり歩き(室内で) | 親指とひとさし指でつまむ 2cm 積木 | 二語出る | められる、も同じ動作を | | | |
| 1:0 | | | | | | | ねた位置から起きる | 箱のふたをとる | 一語出る | 未知の人を恥かしがる | つまれたおもちゃをとる | 父母兄弟(身近な人)がわかる | |
| 0:11 | | | | | | | 這う | 1つのものを持ち、もう1つのものを取る | バイバイ、反応する | おもちゃをとられ不快を示す | 好きなおもちゃの方をとる | 未知の人を恐れる(人見知り) | |
| 0:9 | | | | | | | ひとりですわる 30秒 | 物を一方の手から他方へうつす | Ma や Mu を声に出す | 手足をバタバタさせてよこぶ | まねして机を叩く | 顔を見て笑ったり話しかけたりする | |
| 0:7 | | | | | | | ねがえりする | がらがらを振る | 人にむかって音を出す | 音楽を聞くとクウクウってよこぶ | いないいないばあをよこぶ | 涙しめと怒った顔がわかる | |
| 0:6 | | | | | | | ひざの上ですわる | 手をのぼしてつかむ | 言葉を声に出す | 大きな音におそれを示す | 反復されたものを期待する | 人を見つめると笑いかける | |
| 0:5 | | | | | | | 足をつまんでひざの上で立つ | 指の間に入れたものをつかむ | キヤーキヤー言う | 母乳をよこぶ | 色板を無色板よりよく見る | 室内で歩く人を叫ぶ | |
| 0:4 | | | | | | | 首がすわる | おもちゃをつかんでいる | 声を出して笑う | お面をみておどろく | ふれたものにさわる | 人をじっとみつめる | |
| 0:3 | | | | | | | 腹這いで30秒頭をあげる | 手や指をもてあそぶ | Bu Bu、Ku Ku を言う | 笑う | 動くものを目で追う(180°まで) | あやされると笑う | |
| 0:2 | | | | | | | 体をおこしたとき頭を保つ | 顔にふれたものをとろうとして手をうごかす | 呼びかけると反応する | 布をかけられて不快を示す | 動く毛糸をじっとみつめる | あやされると静まる | |
| 0:1 | | | | | | | 腹這いで頭をちょっと上げる | 手にふれたものをつかむ | 泣き声の区別がつく | お乳をとられて不満を示す | 弱い光をみつめる | 満足してよくねむる | |
| 0:0 | | | | | | | | | | | | | |
| 生移手言情知社 | | 移動運動 | | 手の運動 | | 言語発達 | | 情意の発達 | | 知的発達 | | 社会的発達 | |
| E Q | | E Q | | E Q | | E Q | | E Q | | E Q | | E Q | |

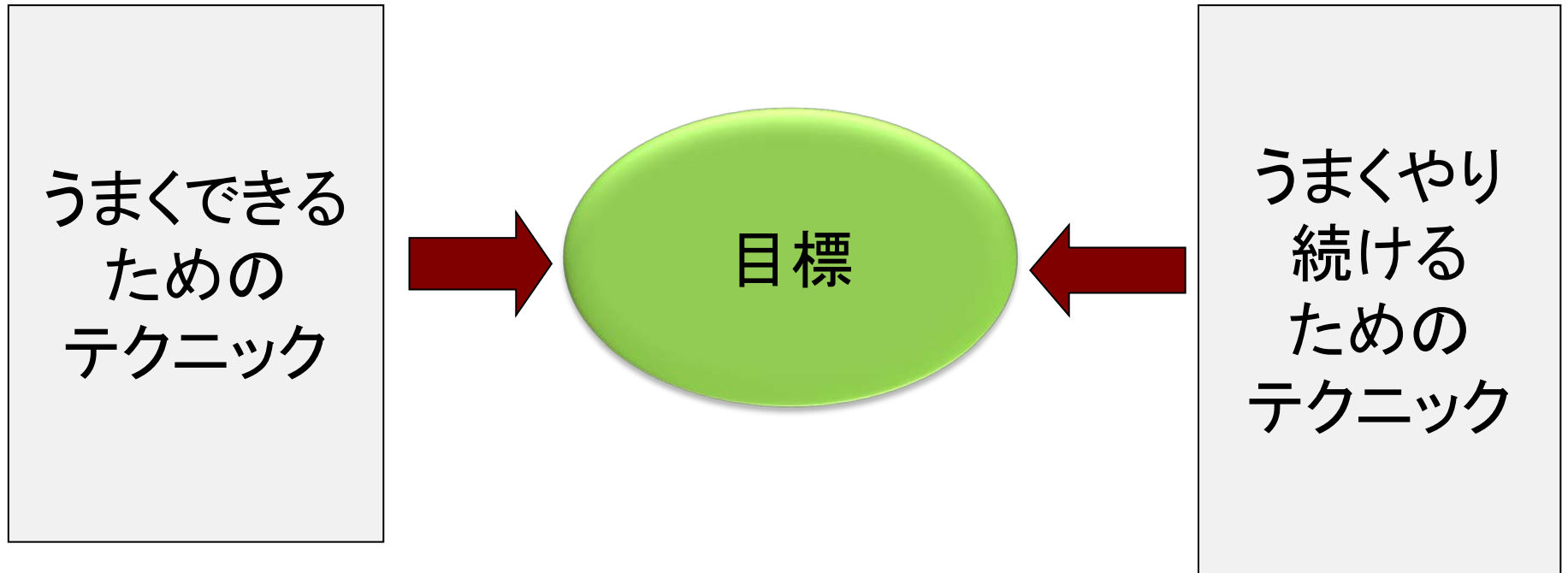
まだ獲得していないが、
獲得できそうな項目を
見つけ、
指導目標にする

発達検査

3. 対応の基本

お子さんに何かを教えたい、
おぼえてほしいときの対応

行動論に基づく指導技法



発達検査などから、子どもができそうな目標を選ぶ

3-1 うまくいくためのテクニック

事前の対応



教える前の準備

- 学びにふさわしい環境

集中できる、必要なものだけがある、興味のあるものを使う

- 一人でできるためのヒント、支援

絵カード、お手本、手順の写真など

- 生活の中の、自然な場面で

(例)朝の着替えのときに、ひとりで着替えることを教える

- スモールステップで教える(説明)

- 意欲を高める(説明)

規則正しい生活支援のスケジュール表



絵カードや写真カードで見通しを持たせる

スモールステップ(買い物)



順番に教えるやり方と、逆から教えるやり方の2種類

意欲を高める

- 意欲を高める環境設定、文脈の工夫
 - 高いところに欲しい物を置く
 - 絵かき用の紙だけを渡す
 - 複数の欲しいもののひとつは自由にとれるが、あとは自由にとれない
 - 遊びを途中でやめる

例

当事者がしたくなるように
小さな意地悪(工夫)をすること

3-2うまくやり続けるための テクニック

事後の対応



結果に対するかかわり方

- 結果に対してすばやく対応

「それでいいんだよ」「違います。〇〇だよ」

- うまくできたら賞賛、ごほうびを

ほめことば、スキンシップ、遊び、おやつなど

- うまくできないときには援助を

ことばでヒント→お手本を見せる→手をかける

- 少しずつ認める(説明)

ごほうびの選択

- 好み、好きなこと、ものを調べる
 - 遊び、おやつ、活動、場所、人、本、キャラクター
- 課している課題に見合うだけのごほうびを
- 生活の中に含まれているごほうびを
 - おやつを増やす、ゲームの時間を長くするなど
- ものより賞賛やスキンシップ、遊びなどの社会的なごほうびを

子どもができたことを喜びをもって受け入れ、認めること

少しずつ認める

- 不完全でもまずは認めよう
- できるに従って基準をあげる
– 例)「ちょうだい」

○:「ちっ」

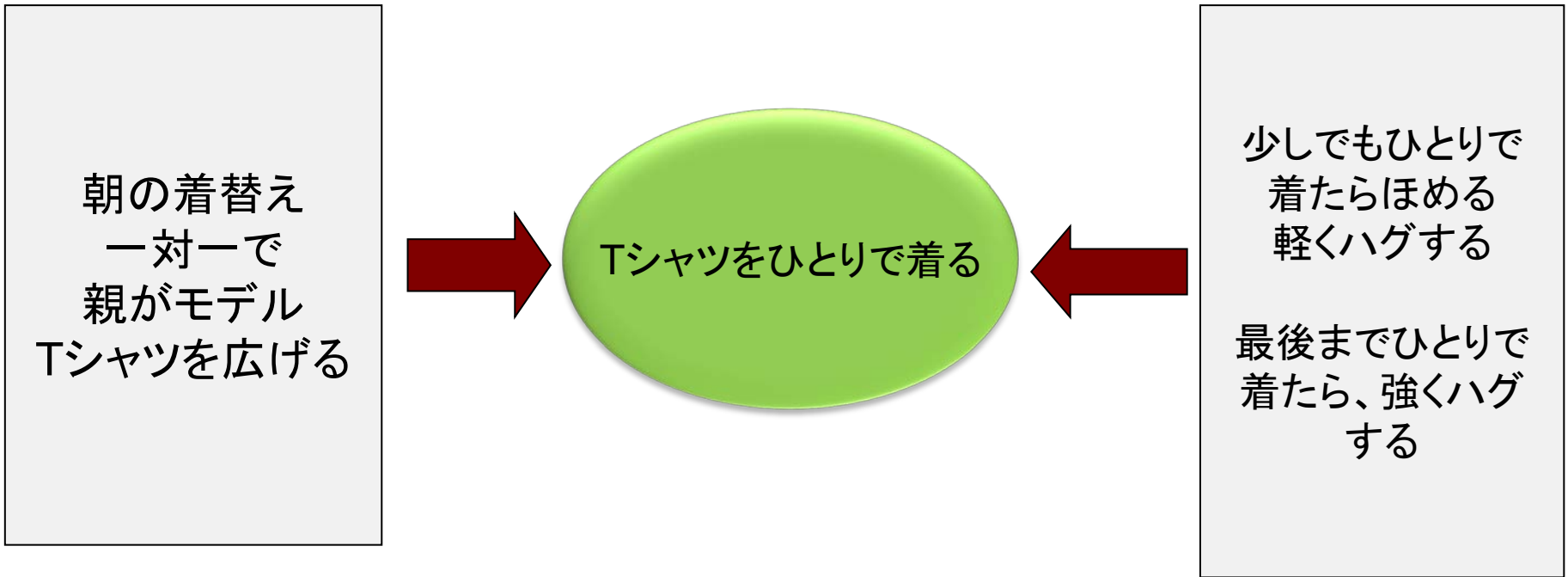
○:「ちょう」、×:「ちっ」

○:「ちょうだい」、×:「ちょう」

「ちょうだい」と
いえるように
なった！



例



目標を定め、教えるための条件を整え、
少しでもできたらほめること。この繰り返し

4. 指導プログラム

言語指導を中心に

本の紹介



言語指導プログラムの特徴

- 0歳から2歳の子ども(発達段階)を対象
- 50の文献から、この段階のコミュニケーション行動を選択・系統化
- 目標を発達順に並べ指導内容に対応
- 効果的な指導技法を採用

具体的ななかかわり方の指導例が紹介されています

- 個別の指導計画作成が可能

CM:「きっとお役に立てると思います」

言語発達段階(一部)

| | | |
|-----|----------|-----------------------|
| 段階Ⅰ | 0から1ヶ月 | 不快なときに本能的に泣く |
| 段階Ⅱ | 1から4ヶ月 | 快・不快で異なる声を出す |
| 段階Ⅲ | 4から8ヶ月 | 大人の注意を引くために声を出す |
| 段階Ⅳ | 8から12ヶ月 | 声を模倣する 二つぐらいの語彙を持つ |
| 段階Ⅴ | 12から18ヶ月 | 一語文で要求する 絵を見て名前を言う |
| 段階Ⅵ | 18から24ヶ月 | 動詞、形容詞を使う 二語文を使う |

指導段階表(一部)

- ・注意を引くために声を出す。 5-13
- ・有意味語が増加する。 5-14(1)-(9)
(要求、物の名前の命名、状態を表す、動物の鳴き声)
 - ・指さし行動が徐々に減少する。
- ・簡単な単語を繰り返したり、話の重要な部分を模倣する。 5-15
 - ・動作を表すことばを使う。 5-16(1)-(3)
 - ・要求を身振りで示す。 SE2(1)-SE3(6)
 - ・ことばで欲しい物を要求する。 5-17(5-14)
 - ・「じー」、「ばー」など親しい人を現すことばを使う。 5-18
 - ・体の部位を言うことができる。 5-19
 - ・「これはなあに」という問いかけに答える。 5-20
 - ・表現語彙が20から40ぐらいになる。 5-21
 - ・身近な物の名前を言う。 5-21(1)
 - ・絵カードや絵本などを見て物の名前を言う。 5-21(2)

指導内容表(例)

* NO 5-14(2) 有意味語が増加する(2)

ねらい: 欲しい物の名前に近いことばでおもちゃを動かすことを要求する。

<指導内容例>

- 1 ぜんまい仕掛のおもちゃで遊ばせる。
- 2 おもちゃが動かなくなるとき、子どもの自発的なことばを待つ。
- 3 おもちゃの名前(もしくはそれに近いことば)や、「ヤッテ」、「コレ」、などおもちゃを動かす要求と思われることばを言ったとき、ぜんまいを巻いて動かしてやる。
 - 4 かえるのおもちゃを「ピョンピョン」と言って動かしてみせる。
 - 5 子どもが「ピョンピョン」と言ったとき、かえるを動かしてみせる。

<教材・教具>

ぜんまい仕掛のおもちゃ。空気ポンプで動くかえるのおもちゃ。

<留意点>

要求の機会を多くするため、初めはあまりたくさんぜんまいを巻きません。

ことばを育てる姿勢

- 伝えたい、知りたいという意欲
- 一対一で、みんなで

集中できる工夫、経験を増やす工夫

- 生活すべてがことばの学習の場
- 計画的に

目標を明確に、発達段階にあわせて

- 「形」にこだわらない

ことば、指さし、身振りサイン、絵カードなどの手段

ことばを学べる環境作り、条件整備

言語指導の基本的な考え方 (ことばの理解)

1. 教えたいものや活動と一緒に見つめる

教材を提示し「ほら、〇〇だね」と声をかける

2. 一緒に活動する

大人の一つ一つの行動をまねて、習得する

3. 活動を繰り返す

パターンを覚えることで、活動の知識を取得する

4. ごっこ遊びを楽しむ

役割、役割交代、相手の理解

活動について知り、その活動に必要なことばを理解する

言語指導の基本的な考え方 (ことばの表出)

1. 要求することを教える

まずは要求行動

2. 指導にふさわしい場を設定する

言語使用にふさわしい場、文脈、シナリオ

3. 自発性を高める工夫をする

「ことばを話したい」という意欲、動機付けを高めること

4. 子どもの反応にはすぐに応じる

5. うまくいかないときには援助する

シェイピング: ミ→ミカー→ミカン
リキャスト: 「ミ」→「そう、ミカンだね」

5. 特別支援学校

特別支援学校

引用: 文部科学省

- 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱
- 一人一人に応じた教育 [2](#) [3](#)
- 専門性の高いスタッフ(教員免許)、充実した施設
- センターの機能
 - 教育相談、地域の特別支援教育支援
- 総合特別支援学校化
 - 複数の障害種への対応

在籍133,000人(H25)、昨年度より3,000人増(全国)
10年間で在籍率1.39倍に(久田,2013) [速報値](#)

特別支援学級

- 比較的軽度の障害のある児童生徒の教育
- 知的障害、肢体不自由、身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症と情緒障害
- 8名で1学級
- 補助教員の導入(市町村)
- LDやADHD等の対応も可能(通級による指導)
- 通常学級との交流学習促進：[弾力的運用](#)

129,994人(H23)(全国)
10年間で在籍率2.17倍に(久田,2013)

知的障害の特別支援学校(例)

新潟大学教育学部

附属特別支援学校

図書

6. 新潟市の相談機関

- 教育相談センター
- 特別支援教育サポートセンター
- 幼児ことばと心の相談センター
- 発達障がい支援センター
- 児童相談所
- 附属特別支援学校

長澤研究室



<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/>

メールマガジン、特別支援教育・発達障害の情報、資料